

県立熱海高等学校

グローバル・ハイスクール

令和4年度年間報告

1 <年間の取組報告>

テーマ：「地域と連携した学校設定科目の研究」

学校の課題：生徒の自己肯定感、有用感を高め、基礎学力を向上する取組を通し、進路実現を支援
その指導の確立と実績の積み上げによる地域の中学生や保護者への学校の魅力浸透

生徒の課題：義務教育段階の学習内容の定着が不十分で、適切な人間関係を構築することが苦手
自己肯定感が低く、将来に対する具体的なビジョンを見出せない生徒が多い。
家庭学習をはじめとした自発的な学習習慣の定着も課題。

<令和3年度の取組>

令和4年度の新教育課程実施に向け、「総合的な探究の時間」での1,2年生の地域課題探究(「熱高ラボ」「熱海ラボ」)及び観光ビジネスコース(類型)、福祉コースにおける地域実習的活動(「商品開発」「高校生ホテル」)等のこれまでの取組を、組織として持続可能な方式へ確立することを目指す。さらに、新課程3年生で各教科の特性を生かした探究科目の開設を念頭に、教科間連携等により生徒の意欲を喚起する多彩な学習活動の展開を模索した。

<令和4年度の取組>

令和4年度新教育課程の円滑な実施:総合的な探究の時間を1年次で2単位に拡充した。また、各教科の特性を生かした3年生の学校設定教科・科目「キャリア・マネジメント」開講に向け、教科学習における地域連携を実施。詳細は取組1~10参照。

<令和5年度の計画>

「総合的な探究の時間」の拡充を2年次まで進め、**次年度に開講する「キャリアマネジメント」**の実施準備を整える。学年の枠を越えた学び合いや学習成果の伝承といった繋がりを生み出すとともに、学習活動における校内・校外の区別を弱め、地域の人材、資源、場所・施設を効果的に活用できる体制を構築する。

取組1 地域連携推進校内委員会

コンソーシアム会議については、学校運営協議会を地域連携校内委員会の場合として年3回実施した。元熱海市教育長、地元企業取締役、熱海市議会議員などで構成され、高校と地域活性化のための協議を行った。

取組2 自己肯定感の向上

実施した学校生活アンケートの分析結果のフィードバックやソーシャルスキルトレーニング(2回実施)による人間関係づくりにより生徒の自己肯定感の向上を目指した。

取組3 職業観・地域課題への関心の育成

地域支援コーディネーターが橋渡しを担い、学校と企業がより良く連携を図る体制が整えられ、教育活動の支援や助言をいただいた。熱海未来広場実行委員会、熱海社会福祉協議会、地元企業などと連携を図り、熱海怪獣映画祭へ出品することができた。

取組4 家庭学習の定着

生徒一人一台端末として chromebook を選定し、授業において積極的な活用を促した。欠席連絡や毎日の健康観察、教科からの教材提示や課題提出場所として使用する c-learning を導入し、次年度以降に1・2年生の全生徒が所持した際に、端末を使用することで、家庭学習の定着を図るねらいがある。

取組5 資格検定試験の取得支援

英語・漢字・数学検定、手話検定、簿記・電卓・パソコン検定等の受検機会を設け、個別指導や環境整備を進めた。

取組6 主体的探究学習の深化

1年生(熱高ラボ)は、「地域の課題」解決のコツ~新聞記事を活用して“地域の課題”解決に挑む~」をテキストとして活用し、地域課題に対しフィールドワークを通して、地域の方から「生の声」を聞く基盤を整備した。次年度以降、三島信用金庫支店長及び熱海商工会議所から毎年キーパーソンの紹介を受けることが決定済み。

2年生(熱海ラボ)は今年、「熱海で起業するとしたらどのような会社を作るか」というテーマを立てた。会社を作るためには、誰かの課題を解消しつつ利益も上げる必要がある。地域で実際に起業されている方のお話を伺い、9月には会社のアイデアを模造紙にまとめ、ポスターセッションとして発表会を行った。グループの中には、実際に出店したり商品化したりしたアイデアもあった。



取組7 効果的な授業実施

全教員が自身の授業で学習者による授業評価(アンケート)を実施し、その分析を通して自身や教科会での授業改善に繋げた結果、自ら進んで授業に取り組む生徒の割合が大きく伸びた。

取組8 生徒理解・指導力向上

年度当初から頻繁に研修や打ち合わせを行い、生徒理解や生徒指導について全教員が共通理解を持って取り組んだ。生徒が人間性の成長や社会性の獲得のために、前向きに努力できる環境や雰囲気を作った。

取組9 授業におけるICT、地域資源等活用の拡充

全教科でICTを活用した授業を展開することで、情報を視覚的、聴覚的に生徒は受け取ることができ、学習に興味関心を抱かせることができた。また、SDGsをテーマとして、企業とWeb会議サービスを使用し、グローバルな視点で学習できた。ICT活用教員研修を実施し、効果的な活用方法を学んだ。

取組10 大学等訪問の実施

2年進学コースの生徒が、2日間にわたって地域の施設やイベントを活用した校外学習を行った。国語科や理科と連携して、「熱海の文学」「熱海・函南地域の星空」など事前学習を行った後、起雲閣や月光天文台等を訪問。



2 <特徴的な取組>

○職業観・地域課題への関心の育成(取組3)

<福祉コース「手話による観光地ガイド&メディシェフ」>

沼津聴覚特別支援学校高等部3年生の熱海探究活動と連携し、観光地ガイドを手話で実施。温泉街や来宮神社等6カ所の魅力や特徴を手話で説明できるよう、熱海市派遣の手話通訳者からコミュニケーション技術を身につけた。当日は、手話で楽しくコミュニケーションを図ることができており、共生社会の実現に向けた良い取組になった。

健康食レシピを提供する県東部のオーナーシェフを招請し、糖尿病患者向けの調理方法を教えていただき、調理実習を実施した。自作の健康食を食べた感想では、「味付けが薄く、普段の食事が自分の健康に及ぼす影響について考えさせられた」という意見が多く、食事面での健康へのアプローチについて関心をもつことができた。

○主体的探究学習の深化(取組6)

<1年生総合探究「熱高ラボ」>

探究の仕方を、年間を通して身に付けることを目的とした。目的達成のため、KDDIによる新アプリ「COLO」のコンテンツ作りと並行して、熱海市内及び南熱海の調べ学習やフィールドワークを通して地域を知ることから開始し、自らの関心と地域の課題を結びつけながら課題発見までを繰り返し学習した。

○授業におけるICT、

地域資源等活用の拡充(取組9) <観光ビジネスコース「地域を担う人材育成」>

静岡県東部地域コンベンションビューローと連携し、県内の大学留学生モニターツアー実習を2日間実施した。ツアープランニング、プランニングのプレゼンテーション、当日のアテンドを現地実習。

「レモンの木プロジェクト」として、生徒が育てたレモンの木を地元ホテルや通学路、本校校地に植樹した。植樹を通して地域と繋がり、持続的連携を図ることができる。

熱海市・伊東市の企業取締役代表で構成する「法人会」による連携授業として、租税教育プログラムを実施。租税への理解を深め、プレゼンテーション力を育成することを目的とし年3回の授業で生徒の資質能力の向上を図った。3年生6月、2年生11月に熱海・伊東・三島の旅館・ホテルで実習を実施。実習場所として新規企業1社を開拓。

3 <成果と課題>

(1) 普通科の魅力向上の実現

県外視察として島根県立隠岐島前高等学校を訪れ、①地域に1校しかない県立高校である②入学者数減少の課題を抱えている③地域資源に魅力があるなどの共通点を基に、本校の教育活動を「魅力的かどうか」の視点で見直そうと校内研修を実施した。

(2) 生徒の資質・能力の成長

生徒自身が知りたい・学びたいという興味・関心から始めることで、生徒はグループで協力し合い、動いて情報を集め、効果的な発表・表現を考えていた。調べ学習やフィールドワーク、実習等を通して地域の職業人や住民と交流することで、知らなかった地域や職業の魅力に気づき、自身の進路意識に繋げることができている。

(3) 地域に開かれた教育課程の実現

令和6年度学校設定教科科目で開設予定の「カリキュラムマネジメント」では、2年次にテーマごとに分かれ、地域で活躍する人材(地元企業の方々)と協働して地域課題解決に取り組む。大テーマとして「食」「自然」「国際交流」「メディア」「リノベーション・建築・自動車工学」「福祉・健康・防災・生涯スポーツ」の6領域を設定し、2年次2月に探究発表会として成果発表を行う。

課題: 特定の教員に依存せず、異動前提で同じカリキュラムが続けられる態勢を構築することが必要である。

